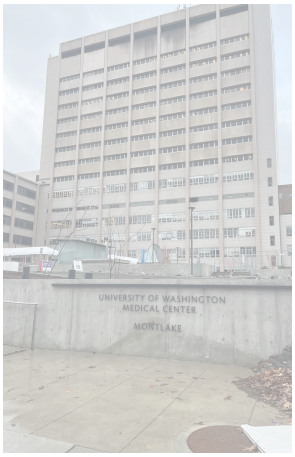
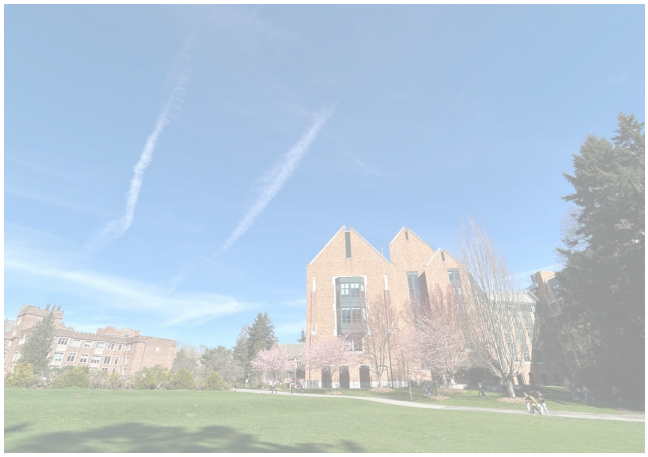
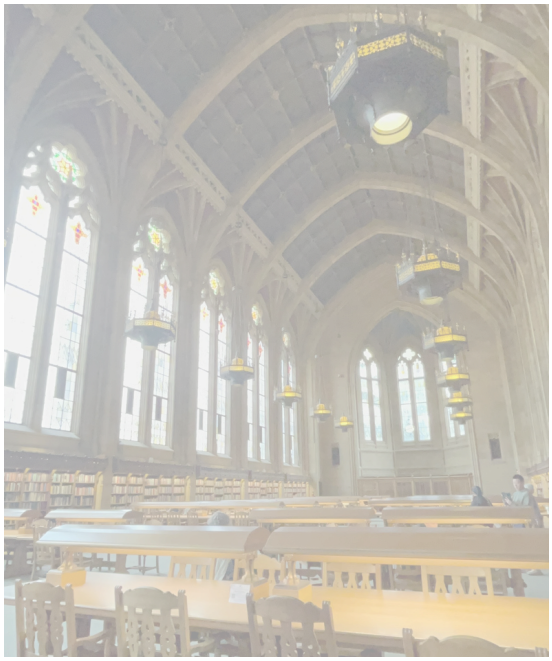
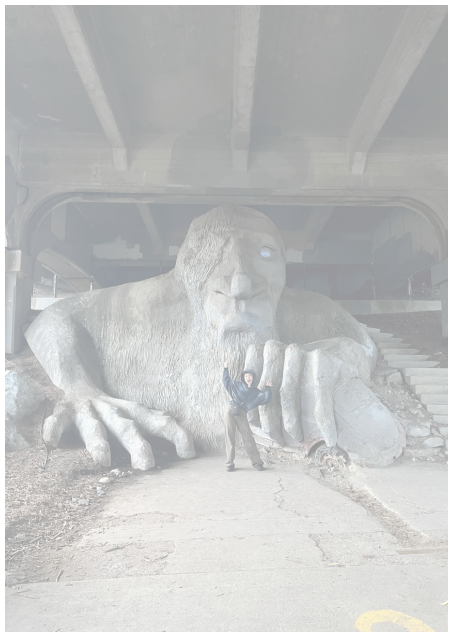






アメリカ
2024年度 看護研修

2025年3月19日(水)　3月28日(金)



2025年3月 アメリカ学生合同看護研修とホームステイ

	月日(曜)	都市名	発着	交通機関	時刻	日程	宿泊・食事(朝・昼・夕)
1	3/19(水)	羽田空港	発	NH-118	18：00 21：05	各地から羽田空港へ 羽田空港 到着 一路、シアトルへ ≪日付変更線≫	(－－機)
		シアトル	着	〃 Link Light Rail ホストファミリー	14：10 夕	入国審査後、大学へ UW Link Light Rail stationへ ホストファミリーと対面。ホームステイ宅へ 現地大学への行き方を学ぶ	ホームステイ(機－○)
2	3/20(木)	シアトル		公共交通機関	09：20 09：30 13：00 夕	ワシントン大学へ English Lesson ワシントン大学看護学部教員による講義：「アメリカのナースやナースプラクティショナーの役割・教育・保健医療システムについて」 帰宅	ホームステイ(○○○)
3	3/21(金)	シアトル		公共交通機関	09：20 09：30 13：00 夕	ワシントン大学へ 小児病院で働く日本人ナースによる看護セミナー 現場から見た日米医療と看護の違いについて English Lesson（日常英語） 帰宅	ホームステイ(○○○)
4	3/22(土)	シアトル		公共交通機関	終日	シアトルダウンタウン観光：パイププレイスマーケットやウォーターフロント、Starbucks Reserve 1号店など	ホームステイ(○○○)
5	3/23(日)	シアトル		公共交通機関	終日	フリーデイ OP：フェリーで Bain Bridge Island へ：初期の日系移民の歴史が始まった日本人ゆかりの島へ	ホームステイ(○○○)
6	3/24(月)	シアトル		公共交通機関	09:20 09：30 13：00 夕	ワシントン大学へ English Lesson（日常英語と視察事前学習） ワシントン大学看護学部 Simulation Center 視察(通訳付き) ＊ワシントン大学看護学部学生との交流 ＊現地学生によるキャンパスツアー 帰宅	ホームステイ(○○○)
7	3/25(火)	シアトル		公共交通機関	09:20 09：30 13：00 夕	ワシントン大学へ English Lesson（日常英語と視察事前学習） 総合病院または現地クリニック研修(通訳付き) ※NPの現場・多職種連携・チーム医療など) そこで働く看護師とQ &A 帰宅	ホームステイ(○○○)
8	3/26(水)	シアトル		公共交通機関	09：20 09：30 13：30 夕	ワシントン大学へ Presentation / Closing ceremony ＊修了証書授与 Nikkei Manor 訪問 ： 高齢者福祉施設研修 ※軽介護施設での高齢者との触れ合いと看護ケアについて学ぶ（通訳付き） 帰宅	ホームステイ(○○○)
9	3/27(木)	シアトル		Link Light Rail NH-117	13：00 16：35	リンクライトレール駅集合 一路、シアトル空港へ 帰国の途へ	機内泊(○－機)
10	3/28(金)	羽田空港	着	〃	19：05	羽田空港着後、解散	(機－－)

＊現地の状況また訪問予定先の都合や、飛行機のスケジュール変更により、日程が変更になる場合があります。

シアトル

シアトルは世界的な企業の本拠地であり、自然も豊かな「エメラルドシティ」です。

現地大学

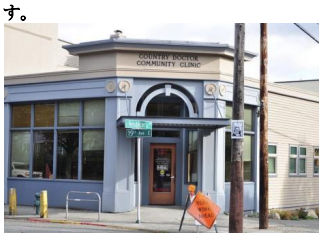
広大なキャンパスに歴史を感じさせる建物が並びます。

現地総合病院

ワシントン州だけでなく他の4州からも患者がヘリコプターで運ばれてきます。

現地大学看護学部のシミュレーションラボ

様々な状況を想定し、どのようにして患者の処置を行うのか、実地訓練の中で学びます。



Community Clinic

アメリカでは、まずかかりつけ医であるPrimary Care Provide(PCP)に診てもらいます。

現地で働く日本人ナースのセミナー

日本とアメリカの看護の違いをわかりやすく説明してくれます

日系高齢者福祉施設

日系人のために建てられた高齢者施設

OP：フェリーでダウンタウンの摩天楼を見ながら、ベインブリッジ島へ

楽しくリラックスして学べるEnglish Lesson

すぐに打ち解けるホストファミリー

アメリカ看護研修報告書

看護学部看護学科2年

私は今回海外看護研修で、アメリカの研修に参加をした。そこで、海外研修を通して私が得たものと感想について報告する。

まず、このアメリカ研修を通して私が得たものについてだ。以前から、海外の文化や海外の方々の思考などについて興味を持っていたことと看護についての見学があり海外の看護のシステムや看護現場の実情を学びたいと考えた。10日間という短い期間ではあるが多くのことを学ぶことができた。まず、アメリカでは多くの国籍の方が暮らしているため、様々な考え方や価値観があり多文化社会であるため、看護の現場でも様々な文化や宗教背景をもつ患者に対して適切に対応スキルが必要であると学んだ。患者の文化的価値観に合わせたケアや、言語の違いによるコミュニケーションの工夫が求められると考える。実際に、アメリカで働いている看護師の方が話していたが、バックグラウンドとして薬物依存の過去や家庭環境、貧困などがあるためその方達にはカウンセラーも入り、協力を促す体制があることがわかった。また、ワシントン大学の看護学部を見学した際にはシミュレーションルームというものがあり、実際に入院病棟、個室病棟、クリニックのような形があった。また、ダミーも高度であり、正常な出産はもちろん異常がある際のシミュレーションも可能でありこのダミーは脈拍や酸素数値の測定も可能であり、普通の練習用の人形に比べるとハイレベルであり、実際に声を出すことができたり、手や目が動く。これらは、より実際の患者に近づけており、実習後の復習や日々の練習で大きな支えになっていると話していた。これらは患者のケアの質や安全性が大幅に向上するのではないかと考えた。

そして、アメリカでは日本と医療システムが異なり、民間保険が中心となり、保険の有無や種類によって受けられるサービスが違うことを学ぶことができた。また、病院の運営や医療費の仕組みも異なるため、アメリカでは経済的背景が医療に大きく影響する部分が好印象であった。そして、日本でも重要視されているチーム医療の部分では、アメリカでは自然にチーム医療を行うように感じた。医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフなど、各職種がチームとして患者に関わり、それぞれの専門知識を持ち寄る姿勢が強調されていた。日本の医療とあり比較すると、積極的なコミュニケーションが行われており、チーム全体で患者の治療方針を決めており、その中でアメリカは多くの専門職が分かれていることから、その専門を深く学び患者のケアに活かす

部分が見られた。 そして、アメリカの看護師は日本に比べて専門性が高く、独立した判断を行う場面が 多いことを学んだ。特に日本にはないAPNやNPの存在は大きく患者の症状を見て今 後どのような計画をしていくか、医師と相談しながら行うことができ日本の看護師に はあまり見られない特徴である。看護師が医師同等の専門的役割を果たすこともあり 、医療の中での地位や責任が高いことを学んだ。この10日間での研修を通して、日 本とアメリカの医療や看護の違いなどを深く理解することができた。

次に今回のアメリカ研修の感想である。このアメリカ研修はホームステイで私は、少ししか英語を喋ることができなく、伝えたいことがうまく伝えられないことが多かった。しかし、翻訳機を使わずに話したいと考えていたが最初はうまくいかず伝えるのに時間がかかってしまったが、ホストファミリーの方々が優しく伝えるのを待っていてくれるおかげで、最後まで翻訳機を使わずに英語で伝えることができた。これを機に英語の勉強をして、会話がスムーズにできるくらいに成長をしたいと考えた。 また、他大学の学生とも関わる機会は中々ない中で、どのような学習を行なっている かなどの情報を共有することができたのもいい機会だと感じた。 このアメリカ研修を通して、他の言語で意見を伝える難しさや文化の違いを知ること ができ、それがそれぞれの職業に繋がっているように感じた。この経験は今後に役立 ち自分を成長させるきっかけとなった。これからも、色々なことに挑戦をしていきた い。

アメリカ看護研修を終えて

看護学部看護学科２年

私が今回の看護研修に参加しようと思ったきっかけは、異文化と看護の授業の中で日本以外の国の医療体制や保険制度、文化的背景について学び、実際にどのような医療が行われているのか知りたいと思ったからである。また、研修先としてアメリカを選んだのは研修の内容に英語での授業やホームステイのプログラムが組み込まれており、自分の英語に対する意識や英語力を少しでも上げられると思ったからである。さらに、アメリカの看護学校や病院・施設の見学から医療に対する認識や多種多様な文化を持つ人々への看護を学び、自分の看護に対する価値観を広げられると思ったのもきっかけの１つである。

研修に行くまでは事前研修として、歴史・社会・文化に関するプレゼンテーションや保健医療・看護の状況と日本との相違に関するプレゼンテーションを行った。また、ESTA の申請や海外で生活をするうえで気を付けるべきことに関する DVD を学校で鑑賞しどのようなことに注意をするべきなのかを学習することが出来た。

〇アメリカ看護研修を通して私が得たもの

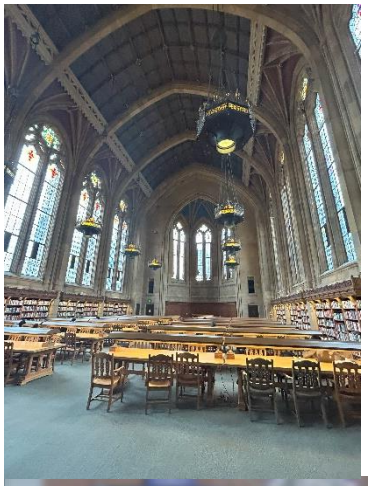
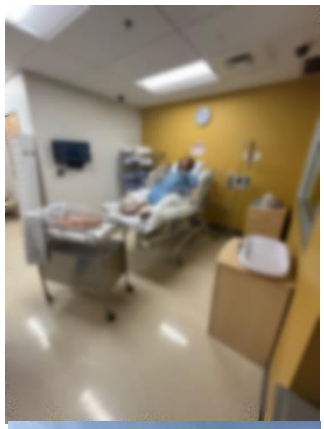
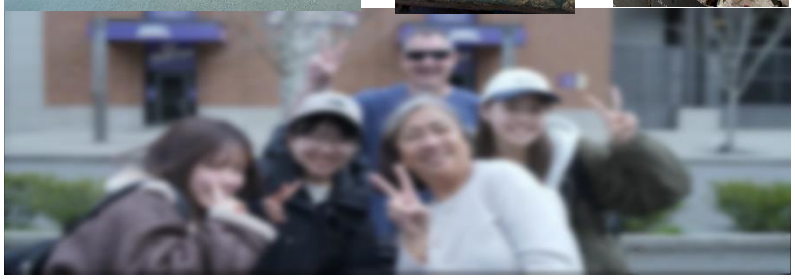
私がアメリカ看護研修を通して得たものは、看護学生のレベルの高さと看護師の役割の重要性である。大学の看護学部の学生が使うシュミレーションセンターを見学した際には、看護設備の充実さに驚いた。ベッドや機器類はそのまま病院でも使えるものや病院で使っているものばかりで、より現場に近い環境で看護を学んでいた。モデル人形もただの人形ではなく看護学生が行った看護によって人形の病状が変化していくようにプログラムされていて、病状が悪化したときにどう看護していくべきなのか学ぶことが出来るものだった。教科書などの知識はもちろん大事だが、自分が行った看護の１つ１つが患者さんに影響を与えてしまうことを学生のうちから学べるのは、実習や働いていく中で大きな強みになると感じた。また、モデル人形は操作によって音声付きになるため、患者さんの状態に関する情報をコミュニケーションで得ることが出来るものシュミレーションセンターの特徴であった。

実際にアメリカで研修を通して大学の先生による講義や子ども病院で働く日本人看護師の方からのお話から、日本とアメリカでの看護師の役割や責任の大きさの違いを感じた。アメリカは日本と違い銃社会であるため事故や事件が多く、私と同じ年代の死因は銃による事故や自殺が上位だったことに驚きを感じた。アメリカは麻薬や覚せい剤の使用が合法でホームレスや感染症が増加しており、アメリカの看護師はそれらに関する知識や理解も重要であると学んだ。さらに、日本と看護師になるためのカリキュラムが異なるため看護学生の知識量や看護技術のレベルの違いを感じ、自分の勉強はまだまだ足りていないと実感した。

〇感想

今回の看護研修は私にとってとても貴重な経験となった。初めて行く海外で、英語に自信がなく研修に行くまでは不安が多かったが同じステイ先の学生との交流やホストファミリーとのコミュニケーションを通して、どんなことでも怖がらずに挑戦することの大切さを知った。アメリカでは自分の意見をしっかりと発言していくべきだという考え方があるため、自分が今どんなことを思っているのか、何をしたいのか、積極的にアピールしていくことが大切であった。初めは英語での授業やホストファミリーの話していることがなかなか理解できずうまく気持ちを伝えられなかったが、毎日夜ご飯の時間になるとホストファミリーに学校での様子や放課後にしたことをたくさん話していく中で、話している英語や内容を理解できるようになりコミュニケーションが取れるようになってとても嬉しかった。最後はホストファミリーと離れるのが寂しくなるくらい仲を深めることが出来た。

放課後や土日のシアトル観光では、アメリカの街並みを肌で感じることが出来た。市内観光では、スタバ１号店ではタンブラーを買ったりたくさんのお店が並ぶ場所を歩いたり、クラムチャウダーをみんなで食べたりと充実した時間を過ごすことが出来た。

しかし、楽しいことばかりではなく高額な医療費や保険制度、政府の影響で仕事を失ってしまったホームレスや麻薬・覚せい剤の影響で意思疎通が出来なくなってしまった人が場所によって多くいてアメリカの現状や社会問題、今後の課題を肌で感じることが出来た。

たくさんのことを学ぶことが出来たこのアメリカ研修での経験を生かして、今後も様々なことに挑戦していきたい。